

製品名: CD207 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08277**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	CD207
別名	CD207; CLEC4K; C-type lectin domain family 4 member K; Langerin; CD207
遺伝子 ID	50489.0
SwissProt ID	Q9UJ71
免疫原	抗血清はヒト CD207 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

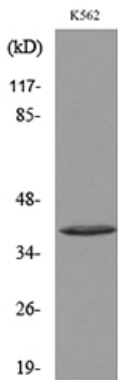
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、表皮および粘膜の未熟な樹状細胞であるランゲルハンス細胞でのみ発現する。ラン

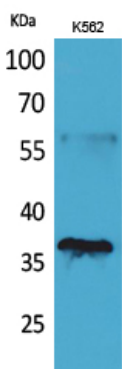
ゲルハンス細胞の細胞質内に存在し、重なり合ったジッパー状の膜からなる細胞小器官であるビルベック顆粒に局在する。マンノース結合特異性を持つC型レクチンであり、このタンパク質によるマンノース結合が抗原をビルベック顆粒に取り込み、非古典的な抗原処理経路へのアクセスを可能にすると考えられている。この遺伝子の変異は、ビルベック顆粒の欠損または糖結合活性の喪失をもたらす。[RefSeq 提供、2010年8月]、機能:マンノース結合特異性を示すカルシウム依存性レクチン、ビルベック顆粒 (BG) の形成を誘導する。膜の重ね合わせとジッパー形成の強力な調節因子です。、オンライン情報:ランゲリン,類似性:1つのC型レクチンドメインを含みます。、細胞内局在:重ね合わせた膜とジッパー膜からなる細胞小器官であるビルベック顆粒 (BG) に存在します。、組織特異性:ランゲルハンス細胞でのみ発現します。、

研究分野

画像データ



CD207 抗体を使用した K562 細胞の溶解液のウェスタンブロット分析。



CD207 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。